

一条坊あたりの今の榎寺の地にあつたと思われる道真の居所。「南館」とも。（『太宰府市史』「建築・美術工芸資料編」参照）

○幽趣…奥ゆかしいおもむき。『漢語大詞典』では「幽雅の趣味」と説明する。

○塙中…塙郭のなか。中国の城市やとりでを守る外囲い、外城の中。ここでは『太宰府市史』に言う、「古代都市・太宰府に藤原京や平城京のような条坊制が敷かれていたことは『観世音寺文書』『宇佐大鏡』に見える土地相論を巡る資料に、左郭と右郭、条と坊を用いて太宰府郭内の地点を示した例のあることから知られる。（中略）これらの資料から判明するのは、郭地を管轄する左郭司と右郭司が置かれ、南北に二十二坊、東へ十二坊、西へ八坊までの条坊呼称が存在した」（第二節、太宰府の条坊 一、左右の郭と条坊）九十二頁）ことを指す。

○諠譁…かまびすしい。又やかましく言いたてる。謹譁。喧譁。喧噪。『漢語大詞典』には「声大而嘈雜」と説明する。『菅家後集』「499二月十九日」に「塙西路北賈人聲（塙の西、路の北、賈人の聲）」とより具体的な表現が見える。

○境遇…境遇。『漢語大詞典』には「境況（＝状況）和遭遇」の説明がある。『菅家後集』「487東山小雪」に「客魂易消滅、境遇獨依然（客魂消滅え易し、境に遇ひて獨り依然たり）」の類似表現が見える。

○幽閑…幽閑。静かで奥ゆかしい。

○潮落…しおの引くこと。引き潮。潮退。干潮。ここでは官舎の庭に降った雨で湿った、水はけの悪い土地を海辺の風雅な光景に見立てている表現。

○暮煙…暮れ方に立つ煙。夕の煙。暮烟。『漢語大詞典』には「亦作「暮烟」。傍晚的烟靄」と説明する。